

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告
International Preliminary Examination Report
 (法第12条、法施行規則第56条)
 (PCT36条及びPCT規則70)



出願人又は代理人 の書類記号 NEC03P025	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/07594	国際出願日 (日.月.年) 16.06.03	優先日 (日.月.年) 17.06.02
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C08G85/00 C08J5/00 C08L 101/16 // C08L101:00		
出願人（氏名又は名称） 日本電気株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対して訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。
 (PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
 この附属書類は、全部で 10 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I 国際予備審査報告の基礎
- II 優先権
- III 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV 発明の単一性の欠如
- V PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ある種の引用文献
- VII 国際出願の不備
- VIII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 16.06.03	国際予備審査報告を作成した日 17.12.03
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 天野 宏樹 電話番号 03-3581-1101 内線 3456
	4 J 9272

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。PCT規則70.16, 70.17)

- | | | |
|---|-------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 出願時の国際出願書類 | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 明細書 第 1-12, 14-22, 24-54 ページ、 | 出願時に提出されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 明細書 第 _____ ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 明細書 第 13, 23 ページ、 | 08.12.03 付の書簡と共に提出されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 請求の範囲 第 _____ 項、 | 出願時に提出されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 請求の範囲 第 _____ 項、 | PCT19条の規定に基づき補正されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 請求の範囲 第 _____ 項、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 請求の範囲 第 1, 6, 7, 10, 22-42 項、 | 20.10.03 付の書簡と共に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 図面 第 _____ ページ/図、 | 出願時に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 図面 第 _____ ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 図面 第 _____ ページ/図、 | 付の書簡と共に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 | 出願時に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの | |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 | 付の書簡と共に提出されたもの | |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- 國際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
- PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
- 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- この国際出願に含まれる書面による配列表
- この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
- 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
- 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
- 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
- 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- 明細書 第 _____ ページ
- 請求の範囲 第 2-5, 8, 9, 11-21 項
- 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1, 6, 7, 10, 22-42
請求の範囲 有無

進歩性 (I S)

請求の範囲 1, 6, 7, 10, 22-42
請求の範囲 有無

産業上の利用可能性 (I A)

請求の範囲 1, 6, 7, 10, 22-42
請求の範囲 有無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : US 5 4 9 1 2 1 0 A
 (Kimberly-Clark Corporation)
 1996. 02. 13

文献2 : US 5 4 8 9 4 5 1 A
 (Roehm GmbH Chemische Fabrik)
 1996. 02. 06

文献3 : WO 96/15159 A1
 (SHELL INTERNATIONALE RESEARCH
 MAATSCHAPPU B.V.)
 1996. 05. 23

文献4 : JP 2000-001529 A (横浜ゴム株式会社)
 2000. 01. 07

文献5 : JP 2001-081240 A (横浜ゴム株式会社)
 2001. 03. 27

文献6 : JP 61-205447 A (不二製油株式会社)
 1986. 09. 11

文献7 : EP 1 3 4 6 4 9 A2
 (NATIONAL RESEARCH DEVELOPMENT
 CORPORATION)
 1986. 03. 20

文献8 : JP 2000-281805 A (ダイセル化学工業株式会社)
 2000. 10. 10

請求項1, 6, 7, 10, 22-42は、国際調査報告で引用した文献1-8により進歩性を有しない。文献1-5, 7, 8には、熱可逆的な架橋構造を形成する官能基を導入することにより、成形物に一定の機械的強度と繰り返し成形加工性を付与した熱可塑性樹脂の構成が示されている。前記熱可逆的な架橋構造としては、文献1にはウレタン結合、文献2-4にはディールスアルダー型の結合、文献5にはカルボキシル基-ビニルエーテル基反応型の結合、文献7, 8にはイオン結合が示されており、前記樹脂の主鎖としては、文献1には生分解性を有すると考えられる脂肪族ポリエーテル及び脂肪族ポリエステル、文献7, 8には同じく生分解性を有すると考えられる多糖類を用いることが記載されている。また、文献6には、生分解性を有する高分子化合物である多糖類及び蛋白が熱可逆的な架橋構造を形成する樹脂であることが示されている。

補充欄（いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること）

第 V 欄の続き

よって、前記公知の文献に示されているような熱可逆的な架橋構造を形成する官能基と公知の生分解性樹脂の主鎖構造とを組み合わせることは、当業者が容易に想到し得た程度のことである。そして、本願発明の効果について検討しても、引用文献1－8の記載から当業者が十分予測し得る程度のものであって、特定の官能基と主鎖構造との組み合わせに基づいて予期し得ない顕著な相乗効果がもたらされたものとは認められない。